

がんになっても 子どもが欲しい

がんの治療によって、将来子どもをもつことが 困難になる可能性があります。

近年、がんに対する治療の進歩によって、多くの患者さんが病気を克服することができるようになってきました。しかし、**治療の内容によっては、妊娠する力(妊よう性)や子どもを作る機能(生殖機能)が低下したり、失われることがあります。男性では精子を作る機能が、女性では、卵巣の機能などが低下し、ご自身で子どもをもつことが困難になることがあります。**

しかし、最近では、がんの治療後にも子どもを持つ可能性を残すため、**がん治療を始める前に、受精卵、卵子、精子などを保存する治療が行われています。**

まずは、担当の先生やスタッフに相談してください。

詳しい内容は
パンフレットを
ご覧ください



▼大阪府内で生殖機能の温存治療を行っている施設を検索できます



妊よう性・生殖機能温存
大阪がん・生殖医療ネットワーク

<https://osaka-gan-joho.net/oo-net/>



私たちは、
AYA世代のがん患者さんを
応援しています！

大阪がん・生殖医療ネットワーク
大阪府がん診療連携協議会 小児・AYA部会
大阪国際がんセンター がん対策センター
大阪国際がんセンターAYA世代サポートチーム
若年性がん患者団体STAND UP!!
全国骨髄バンク推進連絡協議会

<パンフレットに関するお問い合わせ先>
OO-net(大阪がん・生殖医療ネットワーク)事務局
〒553-0003 大阪市福島区福島4-2-78
独立行政法人地域医療機能推進機構大阪病院 産婦人科
Tel. 06-6441-5451



がん治療と子どもを作る機能(妊よう性*・生殖機能)の温存

妊よう性・生殖機能温存治療は、がん治療開始前に行います。しかし、このために適切ながん治療を受けなかったり、がん治療が遅れたりすることは望ましくありませんし、治療の内容によっては、生殖機能への影響を心配する必要はないかもしれません。妊よう性・生殖機能温存治療を希望する場合は、治療前の早い段階でがん治療担当医に相談してください。

*「妊よう(孕)性」とは妊娠する力のこと

がん治療による生殖機能への影響



放射線治療 ●●●

照射量や部位により、卵巢機能・造精機能、脳で分泌される生殖機能に関するホルモンなどに影響を与えます。



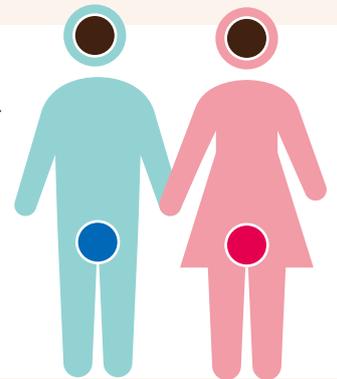
化学療法(抗がん剤治療など) ●●

種類や投与量により卵巢機能・造精機能などに影響を与えます。



手術療法 ●●

両側卵巢・子宮、両側精巣の摘出などにより不妊となります。



妊娠の可能性を残す方法(妊よう性温存方法)



治療で影響を受ける前にあらかじめ卵子や卵巢を凍結する方法です。卵子凍結・胚(受精卵)凍結・卵巢組織凍結の3通りあります(下図)。

妊よう性温存方法の比較

	卵子凍結保存	胚凍結保存	卵巢組織凍結保存
処置にかかる期間	2~6週間	2~6週間	1~3週間
パートナー	必要なし	必要あり	必要なし
注意点	・排卵誘発剤を使用すると女性ホルモン値が上昇する	・排卵誘発剤を使用すると女性ホルモン値が上昇する	・手術が必要 ・使用時に卵巢に転移しているがんを移植する可能性あり

(がん治療を開始するにあたって 女性用「小児・若年がん長期生存者に対する妊孕性のエビデンスと生殖医療ネットワーク構築に関する研究」班(編)より引用・一部改訂)

妊よう性・生殖機能温存治療にかかる費用

これらは、すべて**自費診療**になります。費用は、受診される医療機関により異なります。また、以下の費用は、おおよその目安の金額です。

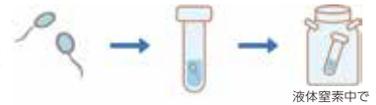
カウンセリング料	: 初回5000円、再診2000円
受精卵凍結	: 約35万円
精子凍結	: 約5万
卵子凍結	: 約35万
凍結保存した場合の更新料	: 2~6万円
卵巢凍結	: 約60万円
凍結精子を使った顕微授精	: 約40万円

(がんと妊娠の相談窓口 がん専門相談員向け手引き 国立がん研究センター中央病院相談支援センター(編)より引用)

子どもをもつ可能性を残す方法(生殖機能温存方法)



がん治療前の精子を凍結しておく方法(**精子凍結**)が標準的です。射出精子を認めない場合や精液所見が非常に悪い場合は、**精巣内精子採取法(TESE)**を選択する場合があります。



生殖機能温存方法(米国臨床腫瘍学会ASCO2013より改変)

	男性	男児
推奨	精子凍結	思春期をすぎた男児であれば精子凍結
研究段階	精巣組織凍結	精巣組織凍結
推奨せず	ホルモン療法	

(がん治療を開始するにあたって 男性用「小児・若年がん長期生存者に対する妊孕性のエビデンスと生殖医療ネットワーク構築に関する研究」班(編)より引用)

生殖医療機関を受診するまでの流れ

- 1 がん治療による妊よう性・生殖機能温存について質問や希望がある場合は、がんの診断を受けた病院の担当医や看護師、薬剤師、相談支援員、心理士などに相談しましょう。
- 2 がん治療担当医からがんの状況、あなたが受けているがん治療が妊よう性に与える影響がどのくらいあるかを聞きましょう。
妊よう性・生殖機能温存を希望される場合
生殖医療機関で実施してください。
- 3 **妊よう性・生殖機能温存を希望しない場合**
がん治療終了後に必要に応じて生殖医療専門医師の相談をお受けいただけます。
- 4 生殖医療機関の選定。
- 5 生殖医療機関を受診の際は、がん治療担当医から紹介状を作成してもらいましょう。
- 6 生殖医療専門医により、あなたの現在の生殖能力や、具体的な妊よう性温存の方法を説明します。(受診料は自費診療になります。詳細は受診される生殖医療機関にご確認ください。)
- 7 生殖医療機関受診後、がん治療を受けている医療機関に戻り、がん治療をお受けください。